

医療がわかる。人が見える。地域とつながる。

# 筑波大学附属病院だより

VOL.11  
2024年

特集

## "Heartfelt Hospital"を目指します



interview

### 平松祐司 病院長

患者さんのためにもっとできることはないかを  
常に考え続け、一步先の医療を

患者さんの  
ために最善を  
尽くします

### もっと安全で質の高い医療のために

患者さんにも職員にも  
感染症が伝播していかないように  
**感染制御部**

防災・感染症管理棟はどんな施設なのでしょう?

みんなが当たり前に  
「安全」を考えられる雰囲気づくりを  
**医療安全管理部**

医療安全のためにどんな活動をしているのでしょうか?

病院長の一日

# Heartfelt Hospital

今は、大学病院自体の位置づけも少し曖昧になりつつあると感じます。高度医療、先進医療は多くの市中病院でも行われており、国としても特定機能病院の仕組みの見直しを図ろうとしています。

医療レベルの高さ、研究力の高さなど、大学病院に求められるものは多々ありますが、何より大切なものとして、人を育てる能力の高さがあると私は思っています。

医療そのものが高度になつたとしても、次の世代につながらなくては意味がありません。次の世代の高度

については着手し、進めているところです。これは患者さんのためにも、職員のためにも、医学の進歩のためになるものです。

また、大学の附属病院としては研究力を高めることも大切であると考えています。医療の現場は忙しく、研究の時間を確保するのはなかなか難しいものです。そのなかで、研究者をどうサポートしていくのかは大きな課題です。

研究をサポートするためのシステムを導入する、優れた研究には待遇面でも考慮できるような仕組みを作りなど、今までよりも積極的に研究を続けられるような環境づくりを進

私たちは「良質な医療を提供するとともに、優れた人材を育成し、医療の発展に貢献すること」を理念とし、特定医療機関および医育機関として、よりよい医療のために貢献しておたご自負しています。そしてこれからは「Heartfelt Hospital」を目指に、私たちが備えている優れた人材、高度な技術・機器などのリソースを最大限に活かし、職員が一丸となって、さらに患者さんのためになる医療を提供いたします。

NOVA年4月に病院長に就任し、今、おやじ  
もやもな新しい課題に取り組んでる  
平松祐司病院長。



医療を担う人材を育てる機能を持つことが、大学病院の使命といえるでしょう。

一步進んだ医療を展開しつつ、研究力も備えながら、かつ次の時代を担うレベルの高い人材を輩出する。それをコンスタントに行える病院の基礎を作るのが、病院長としての私の務めであると肝に銘じています。

日本語に訳すと「心のこもった病院」になるでしょう。

けれども「Heartfelt」という言葉には、さらに深い意味がこめられています。

私たちは、患者さんのためにもつとできることはないかを常に考え続け、一步先の医療を提供しなくてはなりません。

ただ単に「心をこめて」というだけではなく、心を研ぎますまし、もつとうまくできないか、もつと早くできなかいか、もつと丁寧にできないかと考え続けるのです。もしかした

寧で踏み込んだ医療を開拓する意識でいますし、最善の医療を提供するために職員一丸となつて取り組んでいます。決して力を抜きませんので、患者さんにはどうぞ信頼してくださいといつていいと思っています。

私自身、心臓血管外科医として手術を担当していた際は、患者さんに「最善を尽くすことをお約束するのでどうか信頼してください」とお話ししていました。最善を尽くすと約束した上は、その約束を厳しく守ります。

ら、自分たちはまだ足りていないのではないか、もつといい方法があるのではないかと常に疑い続けることの必要です。それが「Heartfelt」な医療であると考えます。

あるいはどこかで満足してしまって、惰性で医療が行われてしまうこともあります。けれども、そんななかでも一回一回立ち止まって、疲れも溜ります。けれども、人間ですからとても忙しいですし、現場はともあつたかもしれません。でも、とにかくでも「もつとうまくできなかつたかな」「明日はもつとうまくやろう」と考

考えています。個人の力はもちろんですが、チームとしての力も必要です。ですから、チーム内でどうしたらいいかを議論し、考え出すことも

平松祐司病院長

Profile 1986年、筑波大学医学専門学群卒業。1998年筑波大学臨床医学系(現:医学医療系)講師となり、2013年、教授に。2018年4月、筑波大学附属病院副病院長に、2024年4月、筑波大学附属病院長に就任。

file 1986年、筑波大学医学専門学群卒業。1998年筑波大学臨床医学系(現:医療系)講師となり、2013年、教授に。2018年4月、筑波大学附属病院副病院長に、24年4月、筑波大学附属病院長に就任。

病院内でもしアグシテントが起こ  
るとしたら、それは最善を尽くしき  
れていない場合が考えられます。チ  
ーム内ではとことん議論を尽くし、  
何が最善策かのコンセンサスを確認  
しなくてはなりませんし、患者さん  
ときちゃんとコミュニケーションをと  
り、間違いのない説明をしなくては  
なりません。

今後私たちは、こうしたことを見  
らに徹底し、医療の質に妥協するこ  
となく、患者さんに信頼していただ  
ける「Heartfelt Hospital」と  
なることを目標してまいります。

簡単なことのように聞こえるかもしれませんが、約束を守るということとは実は本当に苦しいものです。

手術の前の晩には、ひと口のビールも飲みません。何日も前から体調管理を万全にして、最高の状態で手術に臨むよう調整します。プロ野球のピッチャーがマウンドに立つ前から試合にピークを持つていくようにするのと同様、1週間も前から計画して、最高のコンディションで手術に臨めるように準備をしていました。たやすいことではないのですが、患者さんと約束した以上は、あらゆる努力を惜しみませんでした。それが医療人です。

決して力を  
抜きませんので、  
信頼して  
いただきたい

Pick Up 1

## Department of Medical Safety Management

医療安全管理部

# もっと安全で質の高い医療のために

みんなが当たり前に「**安全**」を考えられる雰囲気づくりを

を中心、毎日の業務にあたっています。

毎月行う組織リスクマネージャー連絡会議では、病院内のあらゆる組織のリスクマネージャーが集まり、

病

院内では、どれほど気をつけっていてもヒヤリとすることが起ります。それに備えて、より安全な体制のために何をすべきか考え、医療の安全を守るシステムづくりをするのが医療安全管理部の役割です。専従の医師、看護師、薬剤師に加え、医師や臨床工学技士などが兼任で参加。事故防止、安全管理を担当するGRM（ゼネラルリスクマネージャー）※



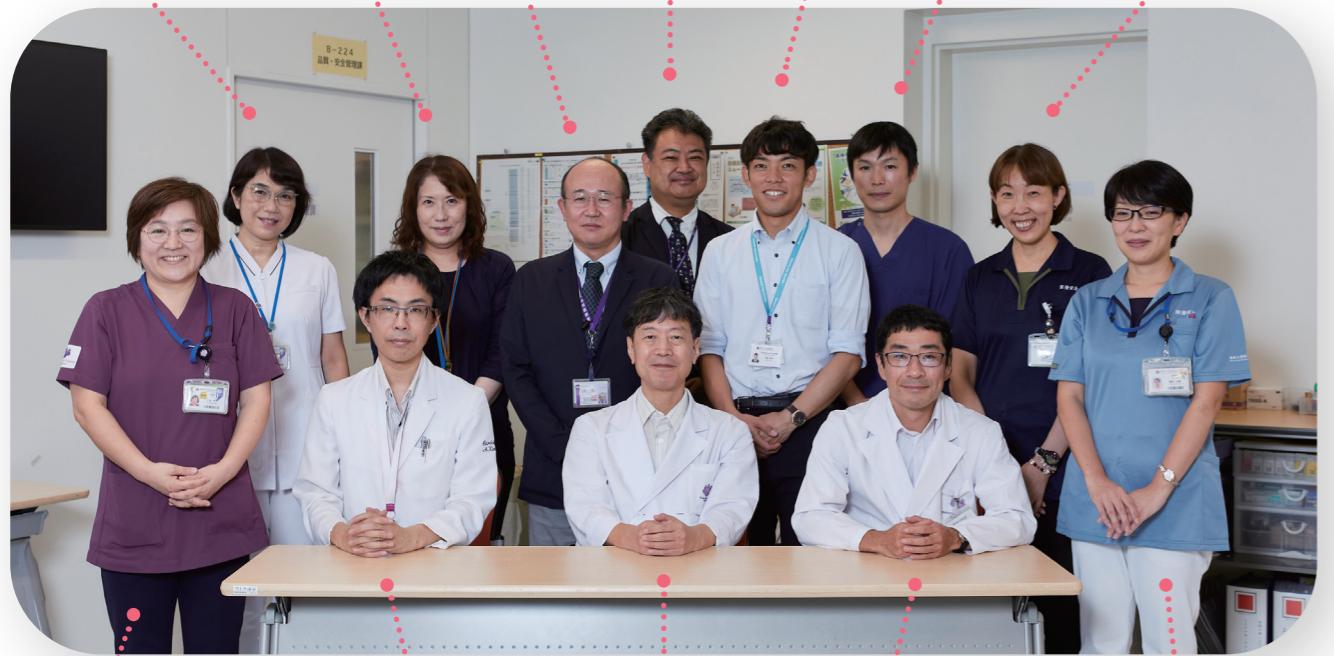
週1回、月曜日に行われる医療安全管理部会では、メンバーがそれぞれの立場から意見を交換し合う。

### さまざまな職種が活動している 医療安全管理部のメンバー

看護師GRM（看護師長）

山田 緑さん

日頃から、事例を確認、調査を行って再発防止に努めます。実際の事例分析の相談に乗り一緒に考えたり、看護部の事例分析報告会に参加し、アドバイザー的な役割も担います。



看護師GRM（副看護師長）

小島明子さん

医療安全に関わる報告書を毎日チェックし、必要に応じて現場に調査に行きます。また、毎週行われる医療安全部会やリスクマネジメント委員会などの準備、資料づくりも行っています。

品質・安全管理課

千島美穂子さん

品質・安全管理課主幹  
事務GRM

池田一郎さん

品質・安全管理課長  
渡邊一義さん

品質・安全管理課  
阿部源司さん

臨床工学技士GRM（副技師長）

茂木芳賢さん

医療機器の不具合が大きな事故につながる可能性もあるため、医療機器の専門家として参加させていただいている。いろいろな事例を学ぶなかで、機器の点検や研修の必要性を強く感じたり、それを現場にもしっかりと伝えたいとおもっています。

部長 医師GRM（耳鼻咽喉科）

和田哲郎さん

副部長 医師GRM（循環器内科）

木全 啓さん

副部長 医師GRM（呼吸器内科）

中澤健介さん

薬剤師GRM（薬剤主任）

嶋田沙織さん

医薬品に関する医療安全の事例について、薬剤師の立場からチェックします。さらに未承認薬、院内製剤、禁忌・適応外使用など、特殊な処方が必要な場合について、有効性と安全性を考えるために審議にも関わっています。

副部長（消化器外科）の明石義正医師は、高難度新規医療技術評価委員長を兼務。手術部副部長としても4ヶ月に1回、手術小委員会で手術の安全について話し合っている。



※GRM=ゼネラルリスクマネージャー。医療の安全性の向上や安全管理に関する業務、医療事故の防止のために従事するリスクマネージャー。

医療の安全を徹底させる医療安全管理部と、病院内の感染をいち早く食い止める感染制御部。ともに外からは見えにくいものの、より質の高い医療のためには欠かせない重要な存在です。

2024年に名称を変更し、より積極的で戦略的な活動をスタートさせたメンバーたちの素顔に迫ります。

各部門の  
現場の人たちと一緒に考え、話合いします

医療安全管理部  
部長  
和田哲郎

筑波大学医学医療系  
耳鼻咽喉科 准教授  
診療科との兼任を経て、2023年  
部長に就任、専従医師として医療  
の安全環境づくりに専心する。



者の方をお招きして講演会を行った際、「安全を推進するには過度のヒエラルキーは好ましくない。フラットな人間関係の中でコミュニケーションが行われることが大事」という貴重なご意見をいただきました。このために、部門内で取り組んでいるのが「さん」づけ運動です。部門内では職種、肩書きにかかわらず「さん」づけで話をすることで、チームの活性化、スムーズな情報伝達に役立っていると実感しています。

さまざまな事例について検討します。その際、病院で起こっているホットな情報を資料としてまとめていましたが、毎月50～60ページにも及ぶほど多くのものです。情報をリスクマネージャーから各部門の人たちに伝えていたことで、情報が隅々まで伝わるシステムになっています。

日々の業務ではGRMが積極的に

現場に出て、気づいたことを現場の人たちと一緒に考え、より安全な体制をつくるための話し合いをしています。要望をいたしたり、アドバイスさせていただいたりの繰り返しで、当たり前に安全を考えられる雰囲気づくりが進んでいます。

安全の徹底にはコミュニケーションが重要です。以前、医療事故被害

## 医療安全のためにどんな活動をしているのでしょうか?

医療安全管理部のメンバーは病院内のいたるところへ赴いて  
安全を徹底させるための活動を行っています。



各病棟や部署を  
院内巡回。  
突撃訪問により  
日頃の手順を  
確認します



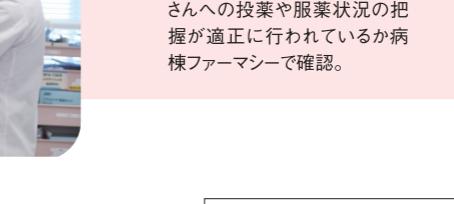
病棟内で看護師長の谷中加奈子さんとチェック項目に沿って確認。例えば患者認認しないために2種類以上の情報で確認を行っているか、転倒転落防止のための工夫などについてチェック。



調査や  
トラブル時には、  
当事者が  
話しやすく  
報告できるよう  
心がけています



医療安全管理部  
で作った  
おそろいのウエア  
医療安全の意識を高める  
ために役立っています。



### 患者さんやご家族のために作りました! 『転倒・転落予防パンフレット』

入院時や病院内で転ばないための注意点が、状況別に丁寧に説明されています。入院時は、自宅と違う慣れない環境です。トイレでの転倒や、ベッドからの転落、点滴のスタンドで足を引っかける……さまざまなことで入院中にケガをしてしまう場合があります。入院時に、看護師さんからこのパンフレットで説明を受ける場合もあることでしょう。

## 感染症が伝播していかないように 役割を果たしていきたい

院内の  
感染対策を  
徹底!

感染制御部  
部長  
**鈴木広道**

筑波大学医学医療系感染症内  
科学教授  
感染症内科診療科長、茨城県感  
染症支援センター長も兼任する。



**感**

染制御部には主に5つの機能があります。

1つめは、ICT（院内感染対策チーム）によって、院内の感染を防ぐことです。感染症や耐性菌が発生したとき、それが広がらないよう制御すると同時に、日頃から院内の至るところできちんと感染対策が徹底されているかどうかをチェックしています。

2つめは、感染症に対する職員の健康管理です。患者さんと多く接する職員は病原体に接する機会が多いため、職業感染の予防が重要です。また、発熱などの感冒症状があつた時には即対応し、フォローアップを行います。

3つめは、抗微生物薬の適正使用を徹底することです。海外では特に、耐性菌の蔓延によって一般的に行います。

使う薬が効かなくなることが大きな問題になっています。AST（抗菌薬適正使用支援チーム）によって、院内の抗菌薬の適正使用が行われているかをチェックしています。

4つめが地域連携です。感染症に関する連携も大切です。今年度から、茨城県感染症対策支援センターを県と共同で設立、司令塔的な役割を担っています。

5つめは教育です。感染症対策は地域全体で意識を高めることが必要です。啓発活動を行い将来の人材を育てていくことも大切な役目だと考

えています。

感染制御を行うのは、より質の良い医療を提供するためです。いつも診療の際に、感染に対するケアが徹底されなければ、医療に集中できません。

そのため、10年後、20年後もインフラとして正しく機能するような組織づくり、システムづくりを心がけています。

診療部門である感染症内科と兼任のスタッフも多く、常に連携をとりながら活動しています。感染対策でお困りのことがあれば、お気軽にご相談いただきたいと思います。

## Pick Up 2 Department of Infection Control 感染制御部

Pick Up 2

Department

of

Infection

Control

感染制御部



週1回行われる  
感染制御部ミーティング

感染症に対する職員の  
健康管理です。患者さんと多く接す  
る職員は病原体に接する機会が多い  
ため、職業感染の予防が重要です。  
また、発熱などの感冒症状があつた  
時には即対応し、フォローアップを  
行います。

3つめは、抗微生物薬の適正使用  
を徹底することです。海外では特  
に、耐性菌の蔓延によって一般的に  
行います。

感染制御を行なうのは、より質の良  
い医療を提供するためです。いつも  
診療の際に、感染に対するケアが  
徹底されなければ、医療に集中でき  
ません。

そのため、10年後、20年後もイン  
フラとして正しく機能するような組  
織づくり、システムづくりを心がけ  
ています。

# 防災・感染症管理棟はどんな施設なのでしょう?

病院内に病原菌を持ち込まないために独立して存在する防災・感染症管理棟。

主に渡航後外来、感染症検査、職員健康管理を行っています。



スタッフは防災・感染症管理棟の2階で通常業務を行っている。

**茨城県唯一の感染症専門棟**  
院内の感染拡大を未然に防ぎます!



駐車スペースも近くに設置され、他の棟に感染を広げない工夫がされている。

**職員の感染症検査をスムーズに**



随时、職員向けに感染症検査を実施しています



**別の入口から除染温水シャワー室へ直行**



すぐに除染が必要な場合は、除染温水シャワー室に直結した入口を利用して、他の人と接触することなく棟内へ。

**看護師  
志塚彩香  
さん**

主に感染症検査と渡航後外来を担当しています。適切な対応をすることで感染の広がりを防げることに手応えを感じます。



患者さんの動線も考えながら感染を予防します



除染が完了したら、そのまま隣接する診察室へ。



まず症状を聞き取りて必要な検査を実施。



診察室は2つあり、症状のある人同士が接触することのないように配慮されている。

**空気感染力のある  
細菌が室外に流出しないように  
棟内は陰圧管理。**



**看護師  
菅原美知子  
さん**

主にICT※、教育を担当しています。病棟での業務も多く、防災・感染症管理棟の現場とのスムーズな連携を心がけています。



有害物質はここでくいとめます

※AST=Antimicrobial Stewardship Team  
(抗菌薬適正使用支援チーム)

※ICT=Infection Control Team  
(院内感染対策チーム)

院内はもちろん、地域の感染症対策にも尽力する  
**感染制御部の皆さん**



- ① 看護師 菅原美知子さん
- ② 副部長 看護部 森田千映さん
- ③ 副部長 看護師長 堤 徳正さん
- ④ 部長 教授 鈴木広道さん
- ⑤ 副部長 病院講師 栗原陽子さん
- ⑥ 講師 喜安嘉彦さん
- ⑦ 感染症内科を研修中の  
初期研修医の先生
- ⑧ 品質・安全管理課長 渡邊一義さん
- ⑨ 病院助教 加藤幹朗さん

- ⑩ ドクターズ・アシstant 金子愛子さん
- ⑪ 臨床検査技師 津田志乃さん
- ⑫ 臨床検査技師 草間智香さん
- ⑬ 病院講師 橋本直明さん
- ⑭ 看護師 宮内美穂さん
- ⑮ 看護師 海津麻子さん
- ⑯ 看護師 赤嶺奈弓さん
- ⑰ 看護師 志塚彩香さん
- ⑱ 看護師 君山 瑞さん
- ⑲ 薬剤主任 金子卓也さん

**薬剤主任  
井坂由佳  
さん**

AST※の一員として先生方や看護師さんと協力し、使用されている抗菌薬を確認、適正化が必要な場合はカルテ介入やりコメントを行います。

抗菌薬が適正に使用されているかどうかを確認

**検査主任  
渡邊真博  
さん**

検査部では微生物検査などを担当しており、感染制御の現場ではどう対策すべきいち早く報告することを心がけています。

病原微生物の研究も行っています

## 清潔か?きれいか?予告なしで各部門をラウンドしてチェック

病院内の感染を制御するために、環境の整備が適切に行われているか、  
有効な感染対策を実施できているか、院内をくまなくチェックします。



清潔に保たれているか、整理整頓が行われているかを確認するのが基本。改善点があれば責任者が後日改善報告をする。

**看護師長  
堤 徳正  
さん**

ICT※担当。院内感染が起きると病棟が閉鎖になり入院が制限されたりすることも。それを防ぐため、日々感染制御に努めています。



核医学検査室を調査中。全部署をくまなく見て回る必要があるため、どの部署も最低、1年に1回は見て回るようしている。手術室など、外科的な処置を行う部署は特に入念なチェックが必要なため2週間に1回の頻度で訪問。

※ラウンド=病棟など院内を見回る医療安全に関わる活動のこと。

# 病院長の一 日

2024年の4月、心臓血管外科長から病院長に就任、  
よりよい病院づくりに奔走する平松祐司病院長。

毎日院内外を忙しく行き来し、  
多岐にわたる業務を的確にこなすその仕事ぶりを追いかけました。

医療の質向上において  
妥協することなく、  
患者さんに  
信頼して  
いただけるよう



**16:00 医療従事職員の負担軽減及び処遇改善委員会に出席**

「院内の働き方改革は、確実に進めなくてはならない重要な課題」

**17:00 教授室に移動して、学会誌の原稿を作成**

「書かなくてはいけない原稿が多い時は、集中できる教授室にこもることもあります」

教授室には「日本さかな検定1級」の認定証が。



**17:30 医療安全ミーティングに出席**

和田部長から病院長等に、院内で発生した医療安全に関する相談案件を報告。医療安全上の問題を、タイマーによって各部が把握する機会に。

**18:00 メールのチェック、整理などを行う**

**19:30 退勤**

休日の過ごし方



釣りは20年来の趣味で、月に1、2回は県内外の海に。「この写真は2023年、学会で訪れた仙台で、外科医仲間と船をチャーターして釣りを楽しんだ時もの。全長54cmのなかなか立派なマダイを釣り上げることができました」

愛犬は3歳のボーダーコリーのマールちゃん。「毎朝マールちゃんが起こしに来て、一緒に散歩に出かけるのが日課。夜、家に帰ってからもマールちゃんと一緒に過ごすのが何よりの楽しみです」



**10:00 筑波大学の執行部等が出席する運営会議に出席**

「大学全体のプロジェクトなどについてブレーンストーミングする場。大学本部には週に2回ほど訪れます」

**11:30 大学本部棟より戻る**

**12:00 月に1回、病院食を検食**

栄養バランスや見た目の彩りなどについてチェックすることも。「限られたコストのなかでベストを尽くしているなど感心しました」



**13:00 決裁書類を確認**



**13:30 事務部門と打ち合わせ**



**14:00 来客対応。他病院の病院長などの来客も多い**

**14:30 月2回の病院執行部会議に出席**



「病院の管理運営に関する重要事項を審議する場。よりよい病院のために、執行部のメンバーが知恵を出し合います」

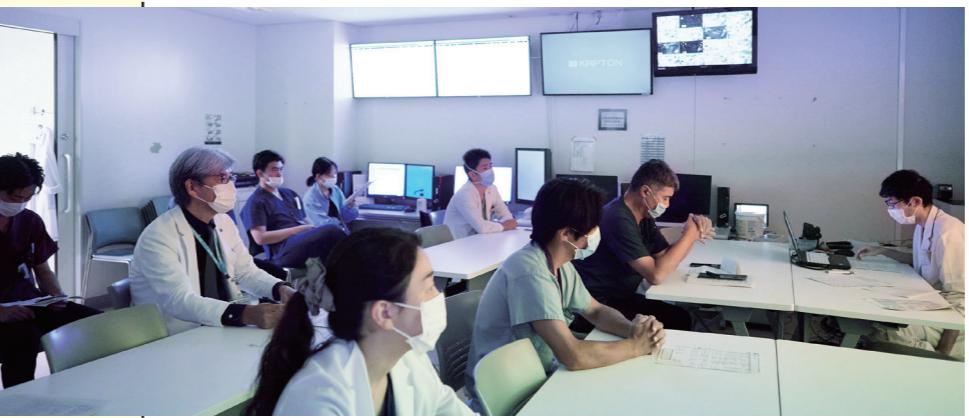
**4:20 起床**

**4:30 1時間ほど愛犬マールちゃんとの散歩**



**7:20 出勤**

**7:45 週3回、心臓血管外科カンファレンスに出席**



**8:20 カンファレンス後、坂本裕昭科長と立ち話**



**9:00**

**病院長室へ移動し、秘書と今日のスケジュールについて確認**

**9:30**



運営会議出席のため  
大学本部棟へ  
車で移動する

## INFORMATION



# つくば市バースセンターは つくば市と連携して 妊産婦さんの妊娠・出産・育児をサポートします



つくば市バースセンターは、妊産婦の皆さんのが主体的に妊娠・出産・育児に臨めるように、バースセンターの助産師がおかあさんとあかちゃんをサポートする院内の助産システムです。

妊娠初期から助産師が中心となり、妊産婦さんとコミュニケーションを図りながら、ゆっくり時間をかけて出産や育児に必要な心と身体づくりをお手伝いします。



♣ あかちゃんが生まれる時には必ず産科医師が立ち会い、安心・安全なお産を提供します。

♣ 大切なイベントである出産を通して、ご家族で協力してあかちゃんを育てていくことをスタートできるように、立ち会い出産を行っています。



陣痛から分娩、産後の回復までを同じ部屋で行うことができる  
LDR: (Labor(陣痛)  
Delivery(分娩)  
Recovery(回復))、  
妊産婦への負担が少なく、家族の立ち会いも出産もスムーズ。



出産の後に提供される ねぎらい膳



♣ 産婦さんが安心して出産に臨み、乗り越えた、という達成感やいのちの誕生の瞬間に感じる喜びと感動を、ぜひご家族で分かち合っていただきたいと思います。



ご家族で協力してあかちゃんを育てていけるようサポート

つくば市バースセンターのスタッフ

### ♣ ご利用のながれ

合併症や妊娠経過の異常がなく、リスク(危険性)の低い妊産婦さんが対象です。  
利用を希望される方は、はじめに産科初診外来を受診してください。

### ♣ 問い合わせ先

産科外来 TEL: 029-853-3878  
受付時間: 平日 9時~15時(水曜日のみ13時まで)



# 筑波大学附属病院

VOL.11 2024  
University of Tsukuba Hospital

